

しんぶん
赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 990円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会
発行責任者 木村 文次

12月議会報告 傍聴記

採算性で廃止では市の未来がない

12月議会は12月2日から12月19日まで開催され、日本共産党市議団の質問は12月9日に行われました。

岩井議員の質問



岩井議員は冒頭、10月27日に行われた総選挙で自公が過半数割れとなったのは「裏金問題」についての国民の厳しい審判の結果で、今こそ自民党政治を終わらせなければならぬと訴えました。岩井議員は3つの質問をしました。

1つ目は、児童・生徒の安全通学に向けてです。市内では、小学校13校の校門前の見守り計37名と、市内小中学校の地域学校協働活動の一環として朝・放課後の登下校を見守り、子どもたちの安全を守るボランティアが貴重な役割を果たしています。そこで校門前の見守り(有償)と見守りボランティア(無償)の違いを質問しました。

市答弁：校門前の見守りの方は市の安全管理委員として校門前だけでなく、学校の安全管理に関する様々な業務を行ってもらっている。一方登下校の見守りの方はあくまでボランティアなので無償で本人の都合で参加していただいている。

2つ目は、地域公共交通の改善についてです。

布佐駅から新木駅間を運行していた路線バスが採算の問題で、事業者から一時廃線が示されたが平和台等の市民から何とかしてほしいとの要望に市は助成し運行が継続され、市民から喜ばれています。

市内の路線バス・あびバスの現在の路線数と問題を抱えている路線の状況を質問しました。市答弁：現在民間が11路線、あびバスが6路線。我孫子駅北口から布施弁天までの便の一部減便を考えている。大和団地と天王台間のバス路線は採算面から廃線になるのではとの事ですが大和自治会との話し合いはしています。

市答弁：自治会との話し合いは行っていない。岩井議員は自治会との話し合いを行い対策をして欲しいと訴えました。

3つ目は、COP29についてです。

地球温暖化対策の一つとしての自然エネルギーの有効活用について県内では早くから取り組みましたが、現在では遅れてしまっています。何故か質問しましたが明解な回答はありませんでした。

地球温暖化対策の一つとしての自然エネルギーの有効活用について県内では早くから取り組みましたが、現在では遅れてしまっています。何故か質問しましたが明解な回答はありませんでした。

船橋議員の質問



船橋議員は冒頭、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞したことに、長崎県出身者として、とても嬉しくおもいます。常々平和が一番と考えていますと訴え質問を始めました。船橋議員は3つの質問をしました。

1つ目は、教育環境行政についてです。PFAS(有機フッ素化合物)が問題になっており、我孫子市立少年野球場の給水は井水か上水か質問しました。市答弁：井水を給水。上水は500m離れていて工事費用が高額になり、利用者が土、日と頻度が少ない。質問する中で、蛇口が13箇所あり、浄水器のあるものは5箇所、残りの8箇所はグラウンド散水とトイレ用として井水を給水している(飲むなど表示している)と判明。

船橋議員は安全のため13箇所全てに浄水器の設置を求めました。

2つ目は、アビスタの階段再転落事故についてです。6月の事故に続き再び10月に転落事故が起きました。70代の女性が転落し11月に通院を終えたとのこと。船橋議員は踏面(奥行)が約34cmとかなり長く、専門家の検証を求めましたが、市は30cm以上の基準を満たしているとの答弁でした。

3つ目は、安心安全な町づくりについてです。国道356号線と台田2丁目の交差点に信号機の設置を求めました。市の答弁：現場は周知している。県に要望してゆく。

新春懇談会のお知らせ

▼アビスタ 2階第2和室 (手賀沼公園内)
▼2月23日(日)14:00から
当日は市議を迎えての市政報告も予定しています。新しい年を迎えて国政・市政・暮らしの事など自由に話せる場にしますのでごぞって参加下さい。

主催 日本共産党我孫子南地域後援会

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。スマホのQRコードはこちらから。→



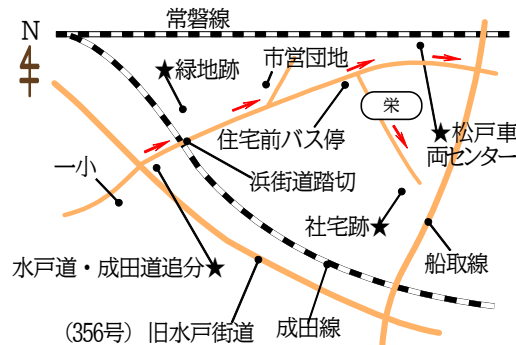
(しらかば編集部)

オオバン

阪神・淡路大震災から今年1月17日で30年になりました。▼震度7の大地震で6434人の犠牲者と家屋全半壊(焼約47万世帯の被害を受けました)▼直下型地震は神戸市を中心とした都市災害となり、高層ビルや地下街の建設を優先し安全を無視した都市開発が問われました。耐震基準が改められる81年より前の建物が多かったのも被害を大きくしました▼被災者への公的支援・個人補償を政府が拒否したため被災者は融資に殺到し、その後の返済の重圧を負います▼持ち家を失った人の約3分の1が資金不足で自宅再建を断念し、仮設住宅と復興公営住宅は多くが郊外など被災市街地から離れた場所に建設。抽選で被災者はバラバラになり地域のコミュニティが崩壊しました▼約7700戸供給された借り上げ復興公営住宅では県や神戸市、西宮市が裁判に訴えるなど入居者の追い出しが大問題となりました▼こうした中で公的支援・個人補償の運動がおきました。被災者生活再建支援法が98年に成立。阪神・淡路は対象外で、支援額も100万円など不十分でしたが、07年の改正で住宅再建にも使える300万支給につながります。

(I)

我孫子古道巡り 追分から柴崎を巡る①



荒れ果ててしまいましたが、寿の有志の方が声をあげ2年前に改修されました。成田線の「浜街道踏切」を渡ると「栄」です。昭和42年と、53年に住居表示されました。栄はほぼ台地上で、東と南側が低地です。

旧水戸道が、我孫子宿から布佐、布川を経て龍ヶ崎に至るコースから、天和2年(1682)ごろ、我孫子宿から柴崎、青山を経て取手に至るコースに変更となりました。



水戸道・成田道追分

国道356号の我孫子宿の東端の一小入口付近の三叉路に「追分」があります。



更地となった緑地

信号を渡ってすぐ北側の緑地は、埋め立て造成され更地となり、現在約60軒の戸建て住宅建設が予定されています。



南側のあひバス「住宅前」の停留所名は、昭和17年に

坂を下り、常磐線沿いには常磐線複々線化に伴ってきた「JR東日本松戸車両センター」我孫子出張所の電車基地があります。坂を下り切ると船取線の「泉交差点」です。



松戸車両センター



社宅の集合住宅跡分譲地

日立精機の工場が完成し、社宅が栄にもつくられたその名残です。

しらかば文芸欄 随筆・緑 S

2月22日は「猫の日(ねこのひ)」。猫の鳴き声「にゃん・にゃん・にゃん」の語呂合わせで、日本の「猫の日実行委員会」が1987年に制定した記念日。私は「猫派」ですが、諸事情で猫は飼っていません。その代わりに猫の置物や絵画を集めています。特に招き猫は40年前に旅先で初めて買ったのですが、改めて数えてみたら100匹を超えていました。

右手を挙げた猫は金運を招く。左手を挙げた猫は人やお客様を招くという説がありますが、私の経験で申し上げますと、100匹置いても金運に恵まれることはありません。



常磐線あれこれ 48

当初は増備が見込まれていたE501系でしたが、常磐線を取り巻く環境は変わり続けて行きました。2007年8月、常磐線にとっては初めての並行競合路線である首都圏新都市鉄道(以降つくばエクスプレス)秋葉原―つくば間が開業しました。



つくばエクスプレス

元々「第二常磐線」あるいは「常磐新線」と呼ばれていたこの路線は、1985年の運輸政策審議会の答申で計画・着工。当初は2000年開業予定でしたが、実際には遅れに遅れて、答申が予定した年の7年後に完成しました。



「春」

若松・高橋祥子

21世紀に開業のつくばエクスプレスは高い規格を備えて、最高130km/h運転が可能でした。E531系はJR東日本が開発した通勤型・近郊型の両方を併せ持つ「一般型車両」という設計思想を反映した車両で、特に最高速度



E531系グリーン車

ろうとしていました。この「シェア争い」に対応すべく登場した車両が現在の常磐線中距離電車の主力であるE531系でした。E531系はJR東日本が6年には2階建てグリーン車を投入して、普通車編成の2両をグリーン車に置き替えました。(次号へ続く) (緑 竹内)

をつくばエクスプレスと同じ130km/hへ引き上げるため、強力タイプの主電動機や高速運転時の安定性を向上した台車など、速度向上策に力を注ぎました。E531系は2005年に普通車編成で登場しましたが、つくばエクスプレス開業一年前の2006年には2階建てグリーン車を投入して、普通車編成の2両をグリーン車に置き替えました。